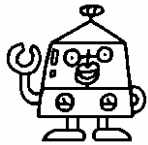


めしべにちがう種類の花の花粉をつけると、どうなるの



同じ種類の花の花粉でなければ、めしべについても何も起こらないので、実もたねもできないよ。

同じ種類の植物どうして受粉^{じゅふん}しなければ、実やたねはできない

たいていの花は、目立つ花びらをもち、あまいみつを用意して虫をよび、虫に花粉を運んでもらっています。アブラナのように、同じ花の中におしべとめしべがあっても、同じ種類の別な花の花粉をもらうしくみになっているからです。

虫は、みつを探^{さが}しているいろいろな花にいくので、同時にさいている、いろいろな花の花粉が体についています。そのため、花のめしべには、別な種類の花の花粉がつくことも多いはずですが、同じ種類の花の花粉だけしか、めしべは受粉できません。

同じ種類の花の花粉がめしべの柱頭^{ちゅうとう}につくと、花粉管というものをのばして、めしべの子ぼうの中に入ります。そこで、たねや実ができるのです。

おしべはオス、めしべはメスの役目をしている

花の役目は、たねや実をつくって子孫(子ども)を残すことです。花粉は、動物のオスが出す精子^{せいし}と同じようなもので、めしべの子ぼうの中には、動物のメスのたまごと同じようなものがあります。花粉がめしべの柱頭につくことを受粉といいいますが、これは、動物の受精^{じゅせい}と同じことといえます。

動物は、イヌの種類がちがっていても、イヌどうしならイヌの赤ちゃんが生まれます。でも、イヌとネコのようにちがう種類の動物どうしでは、赤ちゃんは生まれません。同じように植物も、種類がちがうものなら、たねはできないのです。

カモとアヒルのように動物どうしが近いなかまだと、アイガモのように、雑種^{ざっしゅ}の子どもが生まれます。ラバも、馬とロバが両親の雑種です。

もっと知りたい人へ：「男女の体のしくみがちがうのは、なぜなの」、「種類がちがうハムスターの両親から、子どもは生まれるの」も見てみよう。